

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名( 京都市立明德幼稚園 )

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	・遊びが充実するための環境構成や援助の検討・実践。 ・週案の充実、評価を生かした有効な活用と積み上げ	・幼児の心の動きをとらえた事例研究。 ・「子どもは自分で好きな遊びを見つけていますか」
	幼小接続の視点	・「親子絵本ノート」の活用の見直し絵を含めた有効な利用。 ・小学校との交流や連絡会の充実。	・「親子絵本ノート」の活用度を定期的に検証する。 ・「絵本を見ることを楽しんでますか」
	心と体・生活習慣	・家庭との連携をしながら、個々に応じた援助をし、生活習慣の定着を図る。 ・体を動かす心地よさを感じる	・生活習慣の週案への明記。 ・運動遊びを保育に取り入れる。 ・生活習慣の家庭での様子を調べる
	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・信頼関係を基盤とした自己有用感。 ・発達に応じた葛藤体験。	・幼稚園に喜んで登園しているか。安心して、生活しているか。 ・友達と遊ぶことを喜んでるか。
園独自の項目	学校運営協議会「どんぐりーず」のさらなる活用	・園行事・保育の流れとの兼ね合いを考えた年間計画の立案と有効な運用。	・「学校運営協議会“どんぐりーず”との連携した幼稚園の行事に喜んで参加していますか。」 ・地域との連携の推進。
	子育て支援の推進	・教育相談の取組の充実。 ・地域の子育て支援センターとしての役割の充実と情報発信。	・ほっこり子育て広場の実施回数(在園児) ・教育相談の参加人数。
	預かり保育の充実	・指導計画の作成・見直し ・参加人数。	・記録等による連携。 ・「喜んで参加していますか」 ・保護者が「有効に活用できているか」



・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年10月24日
	評価者・組織	教職員
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・「子どもが好きな遊びを見つけている」について は、年長・年少とも「そう思う」「大体そう思う」で100%になる。	魅力的な環境、意図的な環境について意識的にしている。そのことで好きな遊びを楽しむ姿につながっているであろう。	今年度の園内研究のテーマを意識し、園内研究をさらに充実させ、実践していくように努力する。
・「親子で絵本を見ることを楽しんでいるか」の、「楽しんでる」が、「そう思う」「大体そう思う」で年長96%、年少97%である。	「親子絵本ノート」は、活用されており、子どもの思いを聞きながら親子でゆったりと絵本を選ばれている姿もある。有効に活用されているかの検証が十分ではない。	「親子絵本ノート」の検証が不十分であるので、今後は定期的にしていき、さらに有効に利用し、読み聞かせや絵本への関心を
生活習慣で「自分のことは自分でしようとする」については「そう思う」「大体そう思う」が、年長96%、年少89%であった。	発達年齢に応じて、自分の身の回りのことは自分でできるように努力しようとしている。	より身の回りの始末や生活習慣が身につくような環境を考えたり、家庭とも連携し、必要な手立てや援助を探っていく。
アンケートとしては年少が「友達と遊ぶことを喜んでるか」としては「そう思う」「大体そう思う」100%で、年長は「友達の思いを聞こうとして遊んでいるか」で96%であった。	発達年齢に応じて、友達のかかわり方の育ちが見られてきているところである。その姿にご理解いただいていると感じられる。	友達とのかかわりについて、さらなる育ちのために、保育の様々な場面での事例研究、検証を今後も引き続き深めていく必要がある。
地域と連携した行事への参加は「様々な体験に喜んで参加しているか」という項目で年長・年少とも「そう思う」「大体そう思う」100%であった。	様々な体験による保育に、喜んで参加して肯定的にとらえていただいている。保育の流れとの兼ね合いを十分検討しながら入れていくことが必要である。	地域との連携がより保育や子どもの育ちに生かせるように、検証していく必要がある。
教育相談の実施回数を年度途中で増やすことで、より子育て支援を充実させようとしているところである。年度当初の参加人数は昨年度より少ないが、情報発信は広げている。	情報発信する機会・場を新たに増やしたことで、本園の子育て支援への関心が少しは増えた多々ではと思う。しかし、参加者は微増なので方策を考える必要がある。	ホームページでの発信のほかに、地域への直接的な発信など、より関心をもってもらえるよう方策を検討する。
アンケートによる結果は、「そう思う」「大体そう思う」が、年長100%、年少94%であった。	子どもたちの喜んで参加している。保護者にとっても有効である。1か月単位の申し込みがしにくい方がある。保育とのつながりを生かすための担任との連携が課題である。	1か月単位の申し込みには、変更し流動的に対応している。ノートの活用、管理職を通じての伝達などによって、担当教員との



学校関係者評価	
評価日	
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・楽しんで園生活を送っている様子が見られる。	・協力できることがもっとあれば、サポートしてきたい。
・「親子絵本ノート」の取り組みは大切だと思う。より充実させてほしい。	・運営協議会の「こころ」の読み聞かせとの連携もしてきたい。
・家庭生活での子育ての意識を高めていくことも大事である。	・幼稚園が家庭との連携を深めていってほしい。
・幼稚園で育っていることを保護者に伝えていくことが大切である。	・地域でも協力できることはしていきたい。
・運営協議会による様々な行事に喜んで参加していただき喜ばしい。	・さらに充実してけるよう協力してきたい。
・参加者数は減っていることには憂慮する。方策を考える必要がある。	・協議会としてできることがあれば積極的に取り入れていく。今後具体的に検討していく必要がある。
・就労支援もあり大変だろうが、子どもも保護者も喜んで参加してもらっていることは有意義である。	・人員等協力できることがあれば、サポートしてきたい。



平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名( )

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実		
	幼小接続の視点		
	心と体・生活習慣		
	信頼関係・折り合い・自己肯定感		
園独自の項目			



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	
	評価者・組織	
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策



学校関係者評価	
評価日	
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策

3 総括・次年度の課題

--

